

2026 4月

鷹栖町図書館に新しく入った本 (3月分より)

☆新しく入った本は他にもございます。
図書室では新着図書のリストを配布しております。また、鷹栖町図書館の蔵書検索から探すこともできます。



たかす(一般)

『カンザキさん』(ピンク地底人3号/集英社)
『君は見たか、放射能雲を』(螢ヒカル/はるかぜ書房)

『作家で食っていく方法』(今村翔吾/SBクリエイティブ)
『名探偵にさよならを』(小西マサテル/宝島社)
『吉田修一と『国宝』の世界』(酒井信/朝日新聞出版)
『外国人労働政策』(濱口桂一郎/中央公論新社)
『哺乳類の食事事典』(南正人/山と溪谷社)
『平成レトロ博覧会』(山下メロ/東京キララ社)
『人生明るく! 歌は長生きの薬』(細川たかし/KADOKAWA)

『カナエトメイ 2』(嗣人/産業編集センター)
『生きとるわ』(又吉直樹/文藝春秋)
『私的応答』(井戸川射子/講談社)
『クマのプーさん』(誕生物語)(ジェームズ・キャンベル/原書房)
『ライブニッツの輝ける7日間』(ミヒヤエル・ケンパ/新潮社)
『アニータの夫』(坂本泰紀/柏書房)
『種まきと発芽の超裏ワザ』(竹内孝功/家の光協会)

たかす(児童)

『ひつじのぼうし』(はらかずお/誠文堂新光社)
『小噺十二か月』(川端誠/ロクリン社)

『シャボンだまサーカス』(吉田のぼら/白泉社)
『ガルマンの通り』(ステファン・ホーレ/三元社)
『ウソ学校』(チョンソンヒ/影書房)
『落語家になるには』(渡邊寧久/ペリかん社)

『ふきのとう』(くすはら順子/ミアキス)
『すききらい』(かわしまななえ/アリス館)
『ぶたくんのねむくないねむくない』(ふくだじゅんこ/大日本図書)
『くまのあいだにるをふやすと』(あわいえ/汐文社)
『人魚姫』(ハンス・クリスチャン・アンデルセン/理論社)
『はじめての動物福祉』(植木美希 監修/旬報社)

きたの(一般)

『さいごにきみと笑うのだ』(星野真里/小学館)
『憤怒の人』(杉山響子/小学館)

『辺境恋愛詩』(雪舟えま/日本印刷株式会社出版・メディア事業部soyogo books)
『メンタルが強い子に育てる』(ダニエル・エイメン/日経BP日本経済新聞出版)
『中高年シングル女性』(和田静香/岩波書店)
『東大研究員がゼロから考えてみた「宇宙の常識」』(澤田涼/大和出版)
『かぎ針で編むモチーフパターン107』(ブティック社)

『あしたの肖像』(岩井圭也/光文社)
『グレタ・ニンプ』(綿谷りさ/小学館)
『被告人、AI』(中山七里/小学館)
『抹茶のお菓子』(坂田阿希子/家の光協会)
『どうすればよかったか』(藤野知明/文藝春秋)
『外国人に聞くと会話がはずむ質問&日本についてよく聞かれる質問200』
(森田正康/クロスメディア・ランゲージ)

きたの(児童)

『ゴシゴシどろんこトラック』
(ミノオカリヨウスケ/文溪堂)

『カタッポ』(山村浩二/福音館書店)
『学校にひそむきみんもんつき』(とみながまい/福音館書店)
『読み書きのない世界』(山下宗久/筑摩書房)

『リサとガスパールにほんへいく』
(ゲオルグ・ハレンスレーベン/河出書房新社)
『あめ』(荒木健太郎/金の星社)
『神の蝶、舞う果て』(上橋菜穂子/講談社)
『人類の学校』(篠田謙一 監修/ニュートンプレス)

ほか

～鷹栖町図書館の本はふるさとまちづくり応援寄附事業の寄附金を活用して購入しています～



図書室だより

企画展 15年目の3.11



企画展 15年目の3.11
鷹栖町図書館にて現在開催中です。
作家さんがそれぞれの想いを込めた
メッセージや作品を展示しています。
ぜひお立ち寄りください。

企画展 15年目の3.11
鷹栖町図書館にて現在開催中です。
作家さんがそれぞれの想いを込めた
メッセージや作品を展示しています。
ぜひお立ち寄りください。

展示期間
3月17日(火)～4月12日(日)
※毎週月曜日は閉室しています。

3月の本棚リレーは
澤田紀代美さんでした。



3月の音楽のある図書室は
argent noireさんによる
フルートとクラリネットの二重奏でした。

